

1

**みんなで作る
住みよいまち**

① 環境の保全

自然環境を保全する活動

42万円

(担当：住民課住民活動グループ)

一般家庭や事業所の灯油タンクの破損などによる油の流出を防ぐために吸着マットを購入しました。
また、再生可能エネルギーについて興味や関心を高めるため、再生可能エネルギーのひとつである太陽光で発電する装置（ソーラーパネル）を使い、家電製品を動かす実演会を3回行いました。



リサイクル活動の奨励

43万円

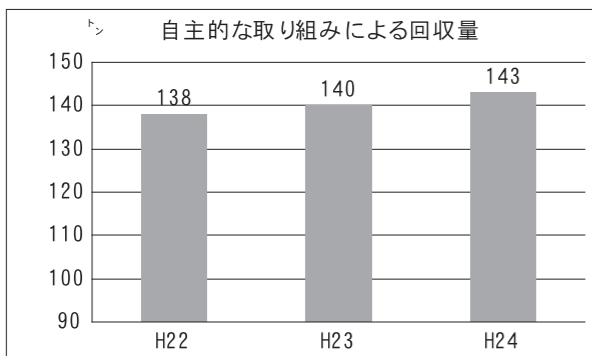
(担当：住民課住民活動グループ)

資源ごみを自主的に回収する子ども会8団体に
対して、回収量に応じて奨励金を支出しました。

<平成24年度の回収量>

新聞紙	84トン	段ボール	23トン
アルミ缶	1トン	紙パック	1トン
雑誌	28トン	ビン	4トン
スチール缶	2トン		

合計 143トン



生ごみ処理機の助成

31万円

(担当：住民課住民活動グループ)

家庭から排出される生ごみを堆肥化して有効利用し、生ごみの減量化を図るため、処理機器を購入した方に費用の一部を助成しました。

助成実績は、コンポスト容器29台、電気式生ごみ処理機5台です。



ごみ収集

4068万円

(担当：住民課住民活動グループ)

各家庭などから出されたごみを集め処理施設まで運ぶ経費と、指定ごみ袋を作る経費です。

新十津川町環境基本計画では、町民1人が1日に出すごみの量を平成31年度に695グラムにまで減らそうという目標を立てています。

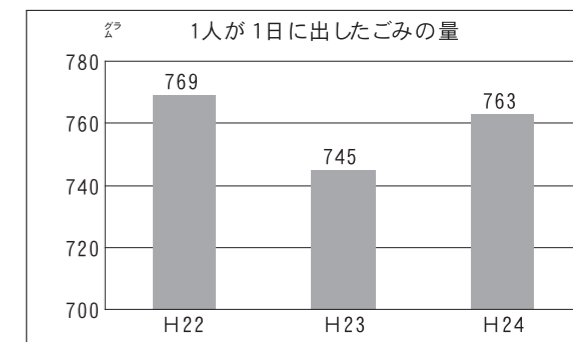
平成24年度は、763グラムでしたので、今後ごみ減量に向けて取り組んでいくことが大切です。

町は、ごみの減量に向けて家庭でできる取り組みなどをお知らせしていきますので、今後も皆さん一人一人のご協力をお願いします。



<平成24年度の排出量(町全体)>

燃やせるごみ	882トン
燃やせないごみ	108トン
生ごみ	472トン
資源ごみ	413トン
粗大ごみ	81トン
合計	1956トン



ごみ処理施設の運営

7479万円

(担当：住民課住民活動グループ)

町内から出たごみを、滝川市にある処理施設(リサイクリン)で処理するための費用を負担しています。

「リサイクリン」は、滝川市、赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町の3市2町で構成する、中空知衛生施設組合で運営しています。

ごみ焼却施設の建設

5612万円

(担当：住民課住民活動グループ)

平成25年度から稼動した、中空知、北空知管内14市町の共同運営による燃やせるごみの焼却施設(歌志内市)の建設にかかった経費です。



埋め立て処分施設の管理 748万円

(担当：住民課住民活動グループ)

総進区にあるごみ埋め立て処理施設の管理運営費です。

現在は、リサイクルで細かく砕かれた燃やせないごみと、中空知衛生センターで処理された汚泥を埋め立てています。

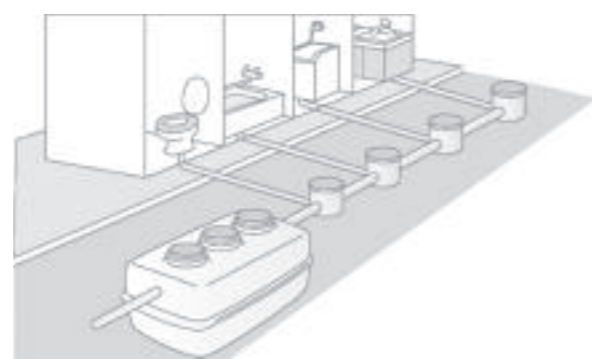


合併浄化槽設置助成 270万円

(担当：住民課住民活動グループ)

合併浄化槽は、家庭から出される生活排水を浄化する装置で、くみ取り式便所や単独浄化槽から合併浄化槽へ切り替える際の助成金を交付しています。

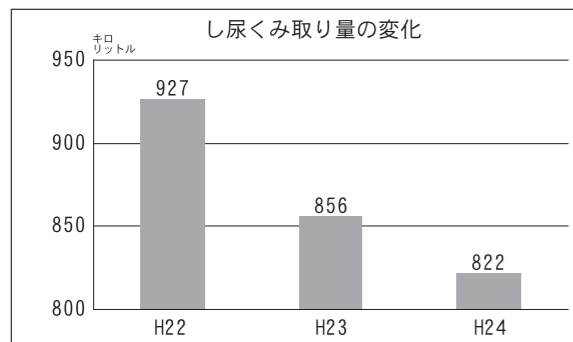
平成24年度は、5人槽2件、7人槽5件の助成を行いました。



し尿くみ取り 671万円

(担当：住民課住民活動グループ)

し尿のくみ取りや運搬経費です。くみ取り量は、人口の減少や、下水道及び合併浄化槽の普及により、年々減少しています。



し尿処理施設の運営 2764万円

(担当：住民課住民活動グループ)

滝川市にある、し尿処理施設「中空知衛生センター」の維持管理費と、施設費を負担しています。「中空知衛生センター」は、滝川市、雨竜町、新十津川町の1市2町で運営しています。

② 生活基盤の充実

安心すまいる助成事業の実施 125万円

(担当：建設課都市管理グループ)

町内の個人が所有する住宅について、燃料資源が節減される省エネ改修工事に対して、助成金を交付しました。

耐震化を促進するための耐震診断と、耐震改修工事の助成申請はありませんでした。



<助成対象と平成24年度の助成件数>

	助成対象	助成率 (助成金限度額)	助成件数
省エネ改修工事	既存住宅で、50万円以上の工事	工事費用の5分の1 (限度額30万円)	6件
耐震診断	既存のすべての住宅	診断費用の3分の2 (限度額4万円)	0件
耐震改修工事	耐震診断の結果、耐震基準を満たしていないと判断された、昭和56年5月31日以前に着工した住宅	工事費用の5分の1 (限度額75万円)	0件

公営住宅等の外部改修 1174万円

(担当：建設課都市管理グループ)

公営住宅トップ団地2棟72戸、特定公共賃貸住宅フィールドニュー1棟6戸の適正な維持管理をするため、屋上の防水と外壁の塗装を行いました。



公営住宅等長寿命化計画の策定 357万円

(担当：建設課都市管理グループ)

公営住宅などの住環境の整備と、長寿命化を図ることを目的に、平成34年度までの維持管理の方針や改善、建替計画を策定しました。

また、町内の住宅環境整備に係る課題を検討し、長寿命化計画の枠組みとなる住生活基本計画も策定しました。

計画策定には、策定委員会及び作業部会を設置し、総合行政審議会住生活部会の意見を伺い策定作業を進めました。

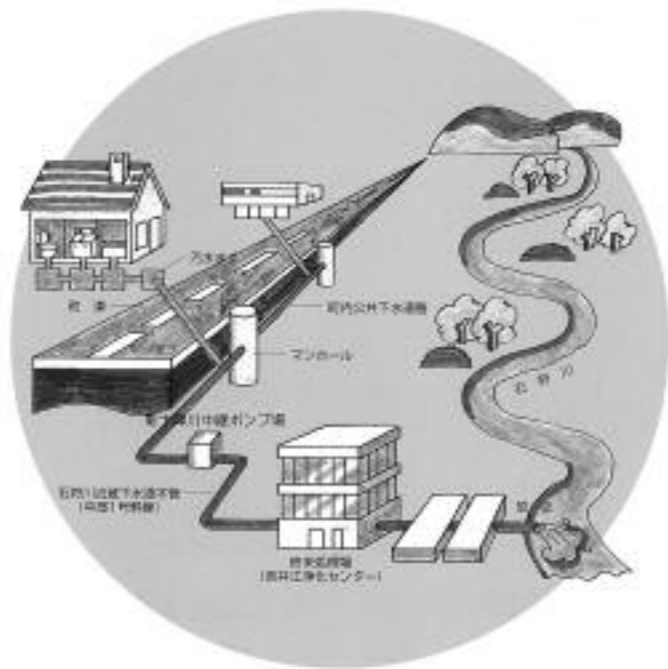


下水道の管理

1億5646万円

(担当：建設課都市管理グループ)

6市4町（芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、美唄市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町）で共同利用している終末処理施設の整備や管理に必要な費用を負担し、過去の下水道整備の借金を返済しました。



水道企業団への負担金 4169万円

(担当：建設課都市管理グループ)

水道施設などの建設費用の一部負担や、徳富ダム建設工事費の出資を行いました。



③ 交通環境の充実

町道の除排雪

1億2850万円

(担当：建設課土木グループ)

冬期間の快適な生活環境と安全な交通の確保を図るため、町が所有している除雪機械と民間から借り上げた除雪機械を使って、町道247路線、除雪延長190kmの除排雪を行いました。

平成24年度は、寒い日が続き、降雪量も例年を上回り、2年連続の大雪となりました。そのため、通常の除雪回数が大幅に増えると同時に排雪回数も増え、経費が大幅に増加しました。



	H20	H21	H22	H23	H24
除排雪費 (万円)	8,389	12,793	7,813	13,639	12,850
年間降雪量 (cm)	640	875	553	812	850
最大積雪深 (cm)	95	159	110	150	125
出動回数 (回)	42	44	27	42	53
排雪回数 (回)	1	2	1	2	2

地域公共交通の確保

1931万円

(担当：総務課企画調整グループ)

皆さんの生活の足である路線バスを維持するために、町内各方面を運行している中央バス7路線のうち6路線に対して、運行赤字の一部を助成しました。

また、平成21年度から3年間行った実証運行の結果を踏まえ、平成25年4月1日からの本格運行に向けた徳富区方面の乗合タクシーや花月区方面の乗合ワゴンの周知活動を行いました。

地域公共交通を検討する機関「新十津川町地域公共交通活性化協議会」では、今後の運行状況を随時把握しながら、地域住民にとってより良い運行形態となるよう協議します。

<中央バス運行赤字助成>

対象路線：滝川浦臼線、滝川北竜線、花月砂川線、総進線、ふるさと公園線、上総進線

<助成額の変遷>

	実質赤字	うち助成額
H20	2932万円	1702万円
H21	3004万円	1700万円
H22	3084万円	1856万円
H23	3164万円	1992万円
H24	3221万円	1881万円

<地域公共交通活性化協議会負担金>

住民周知用パンフレット代 15万円

中央バス利用者向けチラシ・ポスター代 10万円



道路整備

1億4512万円

(担当：建設課土木グループ)

安全で円滑な交通を確保するため、町道西2線ほか8路線(約3.3km)の改修を行いました。また大和田地区にある町道の路線名が分かる標示板を設置しました。

〈主要工事箇所〉

(補助事業)

- ①西2線道路舗装工事
- ②西2線道路改築舗装工事その1
- ③西2線道路改築舗装工事その2
- ④道路名標示板設置工事

(町費単独事業)

- ⑤学総線舗装補修工事
- ⑥西1線舗装改修工事
- ⑦西村農場2号線歩道改修工事
- ⑧北3線舗装改修工事
- ⑨青葉6条通り舗装補修工事
- ⑩みどり団地内道路改築舗装工事(3路線)



橋梁長寿命化修繕計画の策定

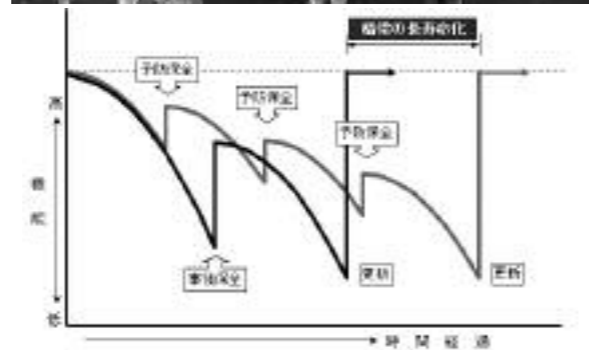
531万円

(担当：建設課土木グループ)

町道に架設された橋の維持管理は、今後、老朽化する橋が増加することを踏まえ、厳しい財政状況の中、効率的で合理的な維持補修対策を行う必要があります。

損傷が大きくなってから対策を行う「事後保全」ではなく、事前に調査を行い、損傷が大きくなる前に対策を行う「予防保全」を導入することにより、修繕・架替に要する費用を縮減すると共に、費用が一時期に集中しないよう、平準化を図ります。

平成24年度は、町が管理する橋梁135橋のうち、92橋を点検し、うち84橋の維持管理計画を策定しました。



平成24年度施工 工事箇所図

